

澄み渡る冬空のオランダより...

December 2009 No 7

Newsletter Circle of Storytelling

語りの輪 ニュースレター



ウィムxストーリーテリング in 2009秋

ストーリーテリング・スクール

9月初旬に始まったストーリーテリングスクール5期生10名との面談を終え、10月、4ヶ月間に及ぶレッスンが始まりました。今は恐いお話と神話に取り組んでいます。来年1月に卒業公演が行われます。

マスタートレーニング・コース

同じく10月にスタートしたストーリーテリングスクールの新たなコース、マスタートレーニング。これは企業や組織を導く経営者や責任者など、リーダーシップをとる立場の人々を対象としたトレーニングコースです。

組織の理念がそこで働く人々の意識とつながるよう、ストーリーテリングをどう活用するのか—今コースに取り組んでいる五人は、成功談、失敗談、助言や教訓的体験談など、それぞれの実体験に基づく五つの異なるストーリーを使いながらそれを学んでいます。

モーツァルト・グリム公演

来年2010年は、グリム兄弟がグリム童話集を世に送り出してから200年という節目の年。それを記念してウィム率いる語りの巡礼隊は、10月21日から11月1日にかけて東オランダ各地でモーツァルト・グリム公演を開催しました。

二人の語り手がグリム童話を二話ずつ語り、それに合わせて後期ルネッサンス・バロックそしてクラシックの楽器を奏でる六人の管弦楽団がモーツァルトを奏でます。二時間近くに及ぶこの公演では、ストーリーテリングと音楽が絶妙に重なり合い一つの世界を作り上げます。この公演は来年も引き続き開催されます。

ハロウィーン・フェスティバル

10月31日はハロウィーンの日。この夜は死者の霊が家族を訪ねたり、精霊や魔女が出てくると言われ、それらから身を守るため、仮装したり魔除けのたき火を焚いたりする伝統行事が各地で行われます。そんな中、ウィムは例年あるハロウィーン・フェスティバルによれば、ストーリーテリングを行っています。今年は北アメリカ先住民族に伝わる物語「Skeleton Vampire(がい骨の吸

血鬼)」を語りました。辺りは森や池の自然に囲まれた野外劇場で、日が沈むと真っ暗闇。ハロウィーンというこの特別な夜、子どもから大人まで皆が仮装して気分も高揚している中、六百人を超える聴き手をストーリーテリングの世界に惹き込むことは、ウィムにとっても大きなチャレンジです。火や煙、照明、舞台装飾、音響を交えながら語るウィムのストーリーに聴き手は息を止めるかのように聴き入りました。ストーリーテリングの後、劇場の後ろに広がる森の中へ。暗い小道に沿って歩いて行くと、物語の中に登場してきたキャラクターが次々に通りかかる人々を待ち構えています。

ストーリーテリングが開く扉

これらの合間をぬってウィムは企業、会議、シンポジウムなど様々な場で、ストーリーテリングやワークショップ、そしてコーチングを行っています。そのひとつに11月初旬、オランダ経済を率いる経営者はじめ各方面のリーダー350人が集まり、「現代の経済危機に企業組織はどう向き合うのか」をテーマとした学会がひらかれました。そして、その学会をストーリーテリングを皮切りにはじめたいと依頼されました。ストーリーがその日の中で交わされる様々な話し合いや会話のよりどころとなり、また、ひらめきや直観、洞



察力を働かせる鍵となるように。この日、ウッド(リュートやギター、琵琶の原型といわれる楽器)演奏者と共にウィムが語ったストーリーは「石攻めの刑」。数年前の来日時にウィムはこの物語を語ったことがあります。覚えている方もおられるかもしれませんが、ストーリーテリングの世界が開く扉には、まだまだ未知数の可能性が秘められているようです。

写真上:モーツァルト・グリム公演
写真左右下:ハロウィーン・フェスティバル



2010夏についてのお知らせ

もうすでにご存知の方もおられると思いますが、来春、ウィムは父親になります。それに従い、2010年夏の来日公演、レクチャー及びワークショップは控えさせていただくことになりました。ウィムの来日を楽しみに待ってくださる方々には大変申し訳ありませんが、ご理解のほどお願いします。

あと数ヶ月でこの世に誕生する小さなストーリーテラー。「むかしむかし…」はたまた「ミルクちょうだい!」と言うのか?その子が最初に発する言葉は何だろうとウィムは今から楽しみにしています。その答えは次回ウィム来日の際のお楽しみに。

*次号ニュースレターは2010年初夏発行を予定しています。

『 踊ること 』

スーダ・チャンドラは現代を生きるインド古典舞踊家である。彼女はそのキャリアの全盛期にとある事故にあい、右足の切断を決心せざるおえなかった。それ以来、スーダは舞踊界から切り離された生活を送っていたのだが、しばらく後、義足をつけた彼女は舞踊界に戻ってきた。それどころか、瞬間にして舞踊界のトップにまた返り咲いたのである。どうしてそんなことができたのか、あるとき聞かれたスーダは率直にこう言った。
「踊るために足は必要ないのです。」



クリスマス&新年

このニュースレターが皆さんの手元に届くのは、年の瀬も押し迫るころ。皆さんが心静かに年の暮れを迎えられますよう、そして新年が胸がワクワクするような生氣あふれるストーリーで満たされますように!



Circle of Storytelling

Eendengang 75, 7552 KN Hengelo, The Netherlands

Tel: +31-74-2422696 Web: www.werder.jp Email: info@werder.jp

日本支部: 〒939-8211 富山県富山市二口町5丁目3番地14 Tel/Fax 076-422-5102

発行・編集: 米屋香林 製版: De Lijn 印刷: RDS、(株)ウエーブ 配送: ヤマト運輸

郵便振替口座: 語りの輪 00730-1-39874